

第9回 町田市資源環境型施設整備基本計画検討委員会 会議録

開催日時：2012年5月20日（日）13:00～15:25

開催場所：町田市役所 森野分庁舎 4階会議室

出席委員：（敬称略）

細見正明、松波淳也、藤倉まなみ、百武ひろ子、杉山昌弘、稲木健志、金田剛、
大谷公二、高木康夫、藤井修、佐藤正志、金子忠夫、小林美知、伊東和憲、富岡秀行

傍聴者： 3名

《次第》

開会

1. 第8回検討委員会及び第6回整備基本計画専門部会、第5回建設候補地選定専門部会議事要旨と今後の進め方
2. 建設候補地選定専門部会からの報告
 - (1) 二次選定の項目及び結果について
 - (2) 三次選定評価項目(案)

閉会

＜配布資料＞

資料1：第8回検討委員会及び第6回整備基本計画専門部会、第5回建設候補地選定専門部会議事要旨と今後の進め方

資料2：建設候補地選定専門部会 二次選定の項目及び結果について

資料3：建設候補地選定専門部会 三次選定評価項目(案)

＜当日配布資料＞

- ・ 今後の検討委員会、専門部会開催予定について
- ・ 環境資源部広報ECO まちだ 4月1日号

第9回 町田市資源環境型施設整備基本計画検討委員会議事録要旨

1. 開会

2. 環境資源部 組織改正について

(田後施設建設担当部長)

環境資源部は4月1日付で組織を改正した。改正後、検討委員会の開催は初めてとなるので、少しご紹介させていただきたい。「ECO まちだ」に環境資源部のご案内を掲載している。環境政策課と環境・自然共生課が新設された。この検討会の運営については循環型施設整備課で担当する。清掃工場や施設の維持管理については資源循環課、ごみの収集や減量に関する事業は3R推進課で担当する。環境保全課については現行通りの担当である。

3. 第8回検討委員会及び第6回整備基本計画専門部会、第5回建設候補地選定専門部会議事要旨と今後の進め方について

〔今後の進め方について〕

(コンサルタント)

資料1についてご説明させていただく。「議事要旨」の要点はアンダーラインと太字で表現している。「今後の進め方」の太字部分は、委員に事前に郵送したのものから表現を変えた箇所であり、必ずしも重要であるということの意味しているわけではない。

○資料1の説明

(小林委員)

メタン化施設の残渣の件について、残渣を燃やささないで堆肥化してほしいという声がたくさんある。全国のメタン化施設の中で、残渣がどのように使われているのかということ当委員会としても調べる必要がある。受け皿が無ければ焼却せざるを得ないという形で、他市の施設は動いているところがある。穂高の施設の担当者に電話で聞いたところ、全国的に、残渣を土に戻して肥料化するのは厳しく色々なところで撤退しており、一番うまくいっているのが大木町の施設だが、ほとんどの施設が厳しいという話を聞いた。土に入れられたら良いが、その条件を作るためには受け皿が必要だということきちんと明らかにする必要があると思う。調べて、委員会として実態をつかむ必要がある。委員会としてデータをきちんと持っていることが重要だと思う。

(細見委員長)

もう一度メタン化施設について調べる必要があるかもしれないが、すでに調査、ヒアリングをしているのであれば、それで良い。

(田後施設建設担当部長)

おおよそは調査を進めている。国内全体という話であれば、建設中のものも含め検討委員会あるいは整備基本計画専門部会で、表に整理して情報を出したい。

(細見委員長)

少し広めに考えて、し尿等のメタン化施設で残渣がどのように処理されているのかがわかれば、現状は押さえられる。なぜ大木町のように農地に還元できないのか等のことがわかれば、付属の資料として出してほしい。

(細見委員長)

資料1 P. 5の4) ⑥「当委員会(部会含む)での検討事項」にある「メタン化施設の小規模化・分散設置について～検討する。」は一言も言ったつもりはない。

メタン化施設とエネルギー回収施設を一体として建設することについては部会で議論している。今

から小規模化・分散化に関しては議論しない。どちらかという、どうやってメタン化施設に適したごみを集めるのかというのを試験的に考えていこうという意味だったと思う。

(宗田部長)

この意見はニュアンスが違うのではないかと思う。メタン化施設の小規模化というより、生ごみの収集、処理をモデル地区でいくつか実施してみて方向性を出しても良いのではないかというご意見だったと認識している。

(細見委員長)

この文章では、当委員会で何を検討するのかということに、この文章だと議論が戻ってしまう。この主旨を事務局はどのように考えているのか。

(田後施設建設担当部長)

この文章は誤解を招きそうだと思う。小規模化・分散設置については市民の意見が確かにあった。方向性として小規模化というのは議論もしていないし、予定もない。あくまで市民意見である。「モデル地区を指定して生ごみ分別収集・メタン化」については生ごみをそれだけ集めて、それをバイオプラントに入れるという提案はあり議論もあるので、「モデル地区を指定して生ごみ分別収集・メタン化」については今後検討していく、という表現は合っている。

(百武委員)

小規模化・分散化については何度か意見交換会でも出ているので、この方向性ではないということが幾つかの検討の中で記録としてあればよい。なんとなく決まっているのであれば改めてそれを決定していただくと、次からの意見交換会等でも「このような理由でこうなりました」と明確に言える。議論の検討課題としては入れておいていただいたほうがよい。

同様にP. 4の堆肥化施設とP. 9の「その他」での生ごみの分別収集についても、併せて一緒に検討課題として残しておいて、きっちり結論を出すという風にした方が、後々問題なく議論に進めるのではないか。

(小林委員)

焼却施設とメタン化施設を一緒にして作るということは決定されたはずである。委員会でも確認された。市民の意見交換会のときに、「生ごみ3,000tの堆肥化はしないで全部バイオガス化するのか」など、そのような勘違いの意見が色々あることは事実である。事務局にお願いしたいのは、基本理念があって何が決まっているのかという合意事項を表などに整理していただきたい。それを見れば既に決まっているものや検討の余地があるのはどこなのかがわかるような資料が必要ではないか。そのような資料が、市民も委員ももう一度確認をする意味で大事だと思う。

(宗田部長)

検討委員会も本日第9回、建設候補地選定専門部会も三次選定に入り、整備基本計画専門部会もこの後部会を開いて議論が出てくると思われる。ある程度大きな山へ向かっている状況と認識している。事務局でも、議論の出発点は一般廃棄物資源化基本計画にあること、その理念に基づいて基本方針を達成していくことを再度確認しながら、今まで確認できたことや決定したことを整理して資料を作りお出ししたい。今までの議論を再度確認するという意味で一覧表を作り、委員の皆さんの意思のレベルを合わせていきたい。大変重要な時期に差し掛かると思うので、そこで一步確認をするための資料をなるべく早い段階でお出ししたい。

(藤井委員)

生ごみの分別のモデルを作って実施する話とメタン化と色々な話を組み合わせたような表現になっており、うまく文章でごまかされている気がする。モデルを作ってやると言っても、例えば1万人対象のモデルを作っても市民全体の40分の1の分別にすぎない。それで50tの設備を使ってどのような検討ができるのか。果たして有効なのかどうか。モデルを作って分別をするなら、50tの設備を作る前に検討を終わらせて、分別をするという方向でやらないと全然意味がない。モデル地域を20万人と市民全体の半分程度の規模にするというようなことなら別だが。どうもはっきりしない。モデル地域は

格好だけで終わってしまうのではないかという気がする。

生ごみを分別するとすると、恐らく相当お金がかかる。分別用の袋の配布や回収の回数を増やすなど、どの程度費用がかかるのか。それらの費用も含め、お金がかかっても良いというところをはっきりしておいてもらいたい。採算が合うような絵を描いているが、メタン化して採算が合う話なら良いが、おそらくそうではない。全部燃やすよりもお金がかかるというのはA社、B社のメーカーアンケートの事例でも分かっている。メタン化をやるという以上は、付随してお金がかかるということも含めて、それでも可だというのを出してほしい。

(宗田部長)

モデル地区というのは収集の可能性についての話である。例えば現在成功している小さな村や町ではバケツで収集している。そのバケツも工夫されたバケツが使われていたりしている。そのようなことを人口43万人の町田市でできるのかという、我々も知見のない中での議論である。モデル地区というのは10万人というような規模ではなく、ある一定の地区を対象にしてご協力をいただくということである。例えばバケツを配布して生ごみをバケツで収集することが可能かどうか、ある一定の期間を設けて収集の方法の可能性を探る。また別の地区では、袋を配布して袋で収集し、破袋をして分別して処理する。そのようなことができるのかどうか。どちらの可能性が高いのか、町田市にふさわしい収集方法なのか、というところをモデル地区で探っていきたいというのが、モデル地区の意味合いである。

お金の問題は当然出てくるので、それも踏まえて事業費も考えていかなければならない。生ごみ施設を造る場合は新しい建設コストが出てくるというのは認識した上での話であり、費用がいくらかというのはこれからの話になる。お金がかかるというのは理解したうえで、一般廃棄物資源化基本計画の主旨を実行していくために、今後どちらの方法で分別ができるのかというのをモデル地区で見られたらと考えている。

(田後施設建設担当部長)

方向性としては事前に調査していく。実施のために実機テストをするという方向で検討している。その方向性が出た段階で具体的な方策を検討していく。これはやるべき問題だと認識しているので、そこはぶれないようにしたい。

お金がかかるというのは事実である。焼却設備でも、メタン化施設でも、操業していくうえで経費は必ずかかる。例えばバイオプラントの方が初期投資がかかったとしても、交付金の話もある。環境省の交付金は交付率を継続するのは難しいが、固定価格買取制度を国が検討している。今年の7月にはその制度が制定されると聞いた。例えばバイオマスで発電し売電した場合にはkWhあたり数十円という今までにない高額での買い取りが15年～20年間継続するという話があった。これらを試算すると焼却設備と費用がそこまで変わらなくなってくるまたは逆転する可能性もあるのではないかと。試算はこれからだが、いずれにしろ初期投資の段階ではやはりバイオプラントのほうが高い。しかし生ごみをそのまま燃やすということではなく、生ごみ由来のメタンから出てくるエネルギーはCO₂排出量ゼロという考え方は、バイオプラント発電であれば考えられる。焼却施設で全てを考えるのではなく、エネルギーを回収するというでそれぞれ考え方を整理していく。いずれにしてもお金がかかるということは認識している。それをランニングコストでカバーしていくまたは違うエネルギー活用でカバーしていくという考え方を、二酸化炭素排出量も含めて検討していきたい。

(小林委員)

皆の合意点はどこにあるのかという点で少し疑問が残る。バイオガスをやるということは委員会としては決まっていると思う。しかし、やらないことを前提に話をされている。結局、部会もその話でいつも議論が戻る。バイオガスなどをやらないで全量焼却をするという話はないはずである。そこを一つ確認していただきたい。

宗田部長の発言の中で収集のときにバケツでという話があった。穂高に見に行ったときには生ごみを新聞にくるんでいた。そのような点はしっかり部内で共有していただきたい。今、町田市の都市部のところでバケツで収集というのは厳しいと思う。しかし穂高は、周知徹底をしなくても、新聞にくるみ特別な色のビニール袋に入れるという収集方法には9割が協力してくれたという話があった。そのような点は正確につかんで委員会で発言していただきたい。

この前建設常任委員会が開かれた。当然議員達から、これはお金がかかるだろうという話が出た。

それからバイオガス化について、検討してもお金がないという話なのかと言ったらそうではなく、しっかりできますということを議会もしっかり言っていた。そのようなことは委員会の皆さんにもきちんと共有していただけたらと思う。

(藤倉委員)

資料1は公表の資料になると思うので、今日出た意見を元に修正をした正しいものを、次回あるいは何らかの形で公表しておいていただきたい。問題はP5の4)の⑥に対応する当部会での検討事項と、P9の3)である。P9の3)では生ごみの収集方法については一定の結論に達しているとあり、委員会での検討事項はないとなっている。今日の議論も踏まえこの資料の修正版を作って、市民の方が誤解のないような形での公表をお願いしたい。

(百武委員)

P10の3)の④で「40%削減」の達成状況については、もしできない場合はフィードバックしもう一回検討し直すとなっているが、実際にすることになっているのか。

(細見委員長)

今の点と藤倉先生が言及した点ともう一度確認して、もう一度各委員に改めて修正版を配って、その後で公表したい。

【検討委員会スケジュールの説明及び意見交換会の広報手段について】

(田後施設建設担当部長)

一点目、7月上旬から予定している意見交換会は、前回2月、3月に行った市内の市民センターの7箇所を回るという意見交換会にするのか、それとも二次候補地を委員に見ていただいてその周辺で意見交換会をするのか、委員のご意見をいただきたい。

二点目、循環型社会形成地域計画の策定・申請を予定しているのが1月なので、12月までに地域計画を策定したいと考えている。意見交換会や地元説明会と並行して、9月くらいから事務作業に入っていくことを考えているので、その辺ご承知おきいただきたい。

三点目、前回の意見交換会で、自治会・町内会の回覧が1ヶ月、1ヵ月半経っても回ってこなかったというご意見もあったので、PRの仕方としてどのような方法があるのかということを経理局として色々今探している状態である。あらゆる手段を使って広報していくということは考えているが、委員には自治会・町内会の役員の方もいらっしゃるのので、その方々からもPRをぜひお願いしたいし、案を出していただきたい。この段階において、市民が聞いていない、見ていない、知らないという状態を作りたくないのので、PRを徹底していきたいと思っている。

(稲木委員)

何箇所か意見交換会に出席したが、建設候補地の問題についてはほとんど意見が出なかった。何故かというところが絞られてないからである。今回はかなり場所も絞られてきていると思うので、従来のような7箇所を実施する必要はないと思う。建設候補地が絞られた段階で、その周辺の地域の住民との意見交換会については重点的にやってもらいたいと思う。

PRの仕方だが、どんなにPRしても多くの住民に理解・支持を得られるかという点を決してそうではない。ごみの問題は非常に大事な問題だが、実際には意見交換会への住民の参加が非常に少ない。これが市民の現状だと思う。町内会の人間は行政から数え切れないほど回覧が回ってくるが、ほとんど回覧は見られていないというのが実態であると思う。回覧は特に世帯数が多いところについては、回るのに1ヶ月程度かかる。これでは回覧の役を果たさないわけであり、一番よい方法としては、町田市の広報の全戸配布が考えられる。前に地域でアンケートをとったところ、町田市の広報はかなり読まれている。町内会の回覧よりは町田市の広報が読まれているという現状がある。

(細見委員長)

広報まちだに記事を出すためにはいつまでに原稿を用意できるかという逆算をしてもらい、広報まちだで広報することが最も効率よく情報が伝わるのではないかと。今の意見は有益かと思う。

(宗田部長)

今ご意見いただいた広報まちだは、7月の後半であればスケジュールもまだ間に合う。この事業は市の重点事業の一つになっている。時期が本当に重ならない限りは、1面あるいは最低限2面3面に、1面が基本的にカラーになるので。先月から月に1度、進捗状況、目指すべき姿といったお知らせを定期的に載せている。ぜひ工夫して、見やすいところで場所を確保して記事を載せる。広報まちだは月3回出ている。これ以外に環境広報を年4回出す。今度7月号が出る。次の号があるので、そのタイミングに合わせて両方で記事を載せる。

(小林委員)

町田市の町内会自治会連合会に入っていないところが、調べたら100近くある。町田市に登録だけして、補助金をいただいて登録をしているところが100近く。それらには個人情報保護審議会等にかかると町内会長に直接資料が送れないという現状があるそうだ。この前のリサイクル文化センターの周辺の懇話会の際に、清住平という小さな300くらいの世帯数の町内会の人から、「一切案内が来ていなかった、私たちは町内会員じゃないのか」と言われた。市民協働推進課に聞いたところ、いつごろにこのような施策のために意見交換会をするのでその時には資料を送らせてくださいと言っておけば、送ることは可能だという話なので、環境資源部はがんばって、きっちり対応していただけたらと思う。

(事務局)

自治会連合会に加盟していない自治会の名簿も市民協働推進課から入手し、案内を発送している。確認したところ、清住平についても発送していた。

(小林委員)

意見交換会の際に発送済みであることを言わないと「市がやっていない」ということになる。言わないと住民にはわからない。「知らされていない」と言わせないくらい頑張って知らせることが大事だと思う。

(事務局)

町内会自治会連合会の組織率は7割を割っている。登録しているのは225しかなく、67%である。

(小林委員)

後はどこにも加入していない市民がいる。

(事務局)

どこにも加入していないか、自治会がないか。

(小林委員)

広報まちだは絶対良いと思う。今回の意見交換会の際にも、残り後1回か何かのときの広報で遅いと怒っていた委員もいたが、広報まちだには載せるべき。

(稲木委員)

用語を小学生でもわかるような文言にしてもらいたい。一般の人にもわかるように。わかりやすくPRすることが大事である。何を分散化するかも含めて。それに、プラスチック資源化施設が失敗した例も含めて、なぜ住民の合意が得られなかったかよく研究するべきである。

(細見委員長)

今の皆さんの意見を踏まえ、広報まちだとECOまちだを周到に準備して、徹底的に周知していただきたい。

4. 建設候補地選定専門部会からの報告

〔二次選定結果に対する民有地の追加と委員会における意思決定について〕

(コンサルタント)

候補地が市北部に偏っているため、不適地を除外して残った地域で、分散化の規模により活用可能な現有施設としてリレーセンターみなみを追加候補として記載した。

(松波副委員長)

一次選定、二次選定とも項目を検討しつつ、項目に従って選定し、二次選定の結果を出した。三次選定についても評価項目を検討すべしとなっている。

(宗田部長)

4 ページの図をご覧くださいと候補地が小山田地区に偏っている。市有地の有効活用、用地費の節約になる面もあるが、既存施設の機能回復に費用がかかることもある。施設の分散化を考えると北部に偏りすぎている。民有地であっても一定規模の広さを持った土地が売りに出されていたり、土地を買ってくれないかのご意見もあったりする。建設用地の可能性について、情報の集約、整理を行っている。その作業内容について本日この委員会の中でご意見いただきたい。25日の建設候補地選定専門部会でも民有地を入れた案について議論いただきたい。委員会ですべて了解を得た上で25日の部会に提出したい。

(細見委員長)

市からの提案として、建設候補地選定専門部会では市有地を検討した結果、市全域を見て北部に偏ってしまった。民有地の売買情報なども入ってきた今、民有地の利用も考えてはどうかという問題提起が出たが、いかがか。

(松波副委員長)

二次選定結果について、前回の候補地の部会で案がとれたものとして出して結果が出ている。用地取得の可能性という面から市有地から選定したが、その後、市の提案として新たに分散化の面から問題があるので民有地についても候補地に加えたいとなると、二次選定結果を変更し、再度見直せという話になる。部会の結論に関わるので十分な検討が必要であり、民有地を加えた検討し直しとなるので大きな修正である。

(宗田部長)

唐突なお願いで申し訳ないが、冒頭申し上げたように、分散化という意味で、私どもの方で入手している民有地のエリアとしては相原地区、鶴川地区、成瀬地区、南地区にあり、分散化を考えて議論いただける提案ができる。

(稲木委員)

北部丘陵整備事業用地の面積が書かれていない。およそでよいのでどの程度かがわかれば知りたい。民有地候補については、財政上の問題からも市有地の活用が良いと思うが、民有地で適当な場所があり安く買えるのであれば検討しても良いと思う。現地を見てみないと何とも言えないが。

(大谷委員)

候補地が丘陵地区に偏っていて、分散化していないのではないかと小山田地区の人からは不満が出る。資源ごみ処理施設は焼却場ほど大規模でないのでもっと市域全体に分散化できるのではないか。この選定結果では反発の意見が出る。

(細見委員長)

候補地選定専門部会で決めたことを検討委員会でひっくり返すということになる。分散化と言いながら結果として候補地が偏ってしまったこと、民有地も含めれば市全域で考えられることを踏まえて民有地を含めて検討し直すことについて、ご意見をいただきたい。

(小林委員)

意見交換会において、部長が費用的なこともあるが民有地、国有地も検討するとお話していたので、市有地だけで選定された結果を見て不思議に思った。部会での検討を経て、最終的な結論は検討委員会での合意において出すものであると認識している。費用等含め検討の余地がある候補地が他にあるなら、この場で合意が得られればもう一度部会で考えられた方がいいと思う。整備基本計画専門部会においても、一度部会で決まっても委員会で合意を得られなければ差し戻すということもありえると思う。

(百武委員)

一次、二次と選定を経て三次に進んだものを差し戻すのはとても大きな修正となる。いつでも覆せるようになってしまうのは非常に問題がある。今回の民有地を候補に加えて差し戻す件については有意義であるしそうすべきと思うが、あくまでもイレギュラーな対応であることを確認しておいていただきたい。また、案を取るのがどの場なのか、改めて確認すべき。先程のスケジュール説明では部会の選定結果報告を受けるだけになっているので、検討委員会で三次選定の評価を決定するという手続きにしないと、同じようなことが起こる可能性がある。

結果を見て分散していないからやり直しということではない。結果を見て変えたのでは客観的な評価そのもののあり方を問われてしまう。今回のことも、分散していないからではなく、費用の面から民有地を視野に入れることが可能になったからということでない、ロジックが崩れてしまう。その点はしっかり確認したい。

(金子委員)

確認したいが、委員会で決めるのはあくまで候補地であり、建設場所を最終的に決定するのはあくまで市役所ではないか。委員会の答申を尊重するとはなっているが。

北部丘陵には、2車線以上の道路から500m以内の場所があるのか、現状として疑問である。公団が宅地開発しようとして頓挫したところであり、ほとんどが道路つきが悪い状況である。その後、行政として農業振興に利用しようとしたが、住民の合意が得られなかった。そのような場所を候補地として使えるのか疑問である。再考すべきではないか。また、(a)サイトは小田急の延伸が計画されているので、候補地とするとかなりの反発が予想される。情報が全部伝わっていなかったのではないか。そのような情報も含めて再考すべきではないか。

(細見委員長)

部会で案を示していただき、委員会で決定することには変わりはない。部会ではある一定のルールを決めて粛々と進めている。部会での結果が予想と違うときにもう一度見直すと言うのはルール上は非常に難しい。

候補地が偏っているからという理由で見直しを進めると、また別の理由で同じようなことが起こる。

(藤倉委員)

分散させることの指標はどこに入るのか。三次選定では重み付けをすることは書いてあるが、2つの候補地の距離をどの程度離すかどうかという指標は、どこに入るのか。

(松波副委員長)

考慮に入るとすれば三次選定であり、二次選定までの段階では分散化の指標は入っていない。結果として今回の選定になった。全体の検討委員会に対する結果であり、再考せよということで差し戻して検討することは可能である。部会として調査をして案を出している。問題があって差し戻されるのは仕方がない。しかし、一次、二次選定と客観的な基準に照らし合わせてどこからも文句がつかないようにと進めてきたので、差し戻されるのは遺憾である。しかし、検討委員会の意思ということであれば部会で再考することはあり得ると認識している。

分散化については三次選定に重み付けの中で入れられると思う。三次選定の項目については検討段階である。分散化についての意見が大きいのであれば、重み付けもこれから行える。

(百武委員)

二次選定まではどこに作るのが可能かという段階。三次選定からはどこに作るのが望ましいかという議論になる。その時に分散化という視点が入ってくるのではないか。

(細見委員長)

市有地に限って議論してきたが、できれば候補地が色々あった中で三次選定をするという主旨で、民有地も含めて検討し直すということではいかがか。

(藤倉委員)

基本的には賛成であるが、民有地全てではなく、ある程度の条件・基準をクリアしたところだけにしてはどうか。

(宗田部長)

民有地であれば何でも候補に入れるということではなく、入手している情報を開示しながら、候補地を二次選定に追加して三次選定に残れるかどうかを議論いただきたい。

(細見委員長)

追加の民有地の情報は25日の建設候補地選定専門部会に間に合うのか。

(宗田部長)

ある程度の情報は掴んでいるので、出し方を工夫して提示する。

(細見委員長)

議論にはできるだけ透明性が要求される。部会での民有地を追加しての検討は時間との戦いになる。また、現場をある程度見ていただかないと。

(佐藤委員)

透明性は必要である。民有地が建設候補地になった場合、周辺住民への説明が新たに必要になる。この透明性をきっちりしていかなければならない。都市計画や街づくりの観点からもどうなのか。透明性が確保された説明で、民有地の候補地が「ここです」とこの委員会だけでも出せるようであれば進められるだろうが、それがなければ会議としては運営できない。

(小林委員)

民有地を削るとするのは、委員会の中で議論されたのか。

(松波副委員長)

27日の建設候補地選定専門部会において、現実的には市有地の活用という側面から市有地のみに絞るのが妥当であるという議論はした。したか、しないかで言うなら「した」ということになる。

(百武委員)

民有地をどのように検討するかについて、二次選定までは建設の可能性の問題なので民有地が入るということだと思う。三次選定で費用や延伸などの問題を考慮して入れていくのが妥当ではないか。二次選定までは機械的に条件に合うかどうかだけ。事務局に聞きたいが、機械的に見たとき、条件に合う民有地は膨大な数になるのか。

(宗田部長)

二次選定結果の図の緑色のエリア内という条件をクリアした、候補地になりうる民有地は数箇所である。掴んでいる情報では7~8箇所ある。議論いただくベースは提出したい。

(細見委員長)

既に示された範囲内であれば、私有地か民有地かの違いしかないので、建設候補地選定専門部会で検討いただきたい。

(小林委員)

事務局からの情報が伝わりきっていなかったのではないかな。

(田後施設建設担当部長)

資料の提出・確認・精査が遅れた。今後は漏れ、遅れがないように徹底したい。

(細見委員長)

広報誌には緑のエリアは載せたのか。広報誌は市民へのPRの有効な手段なので、的確に情報を開示していくことが大事である。

大きな決定ではあるが、二次選定について市有地と用地取得の可能性のある民有地を含めて検討するというので、改めて候補地選定部会で議論していただく。

(百武委員)

大事な決定は委員会で行うということを確認したい。

(細見委員長)

部会で検討していただいた内容は、最終的には検討委員会で決定する。各委員を部会に分けたときにもそのような約束だった。

【二次選定結果の広報について】

(稲木委員)

広報に載せる場合、建設候補地が一番の関心事である。7月の広報にどこまで公表するのか。事務局はどのように考えているのか。

(田後施設建設担当部長)

検討委員会で決まったことは全て公表する。検討している段階もお見せする。具体的に何を載せるかはこれから詰める。

(稲木委員)

一般市民に議論を載せても意味があまりない。主に結論部分だけ、こういう風に検討した結果、検討委員会ではこういう方向で行きますで良い。

(藤倉委員)

4月1日号に緑の二次選定エリアを載せていないのはチャンスを逃しているのではないかな。市民はいきなり候補地を見せられても「聞いていない」ということになるので、絞り込んでいく段階を載せるべきである。広報に載せるタイミングを見極め戦略的にやっていかなければならない。緑のエリアを載せるべきだし、直近の広報には必ず載せていただきたい。

(宗田部長)

別の広報には載せている。7月の広報にはその時点で確認できていることは載せて、意見交換会にあげていくデータベースとしてお知らせする部分を載せたい。

一次選定エリアについては昨年出している。二次選定についてはまだ公表できる段階にない。7月に二次選定結果と三次選定評価項目を載せる。

(細見委員長)

可能な限り広報でお知らせしていった中で、議論していきたい。

【三次選定評価項目(案)について】

(コンサルタント)

資料3の三次選定評価項目（案）について、3）②類似施設の状況、③地域住民の居住状況、④市境からの距離を追加した。25日の部会で具体的に議論される予定である。

（細見委員長）

修正評価項目（案）の分散は下水処理施設などの類似施設との分散であり、検討委員会で議論している分散とは意味合いが違う。検討委員会で議論している分散についても評価項目に盛り込んでほしい。

（百武委員）

分散化もそうだが、施設がいくつになるのか。説明会のときにメタンガスそのままを利用するのはない方法もご紹介いただいたが、施設内容によって項目自体が変わってくるのではないか。整備基本計画専門部会から、5月25日の候補地選定専門部会までに「こういう視点を入れてほしい」など提案いただきたい。

（細見委員長）

本日この後の部会で、分散化について議論する予定である。資源ごみ処理施設の数についても決めたい。

（小林委員）

市民意見の防災面の考慮について、構造強度を保有するように設計するため三次選定評価項目に反映しないとあるが、断層の問題など地震対策について検討してほしい。

（細見委員長）

活断層からの距離は一次選定の項目にある。

（田後施設建設担当部長）

立川断層の位置、延長上に施設が該当するののかについては、現在調査中で東京都からの回答待ちである。調査の結果と合わせて、一次選定エリアの形が変わる可能性はある。

（細見委員長）

今回の議論の内容を踏まえて25日には三次選定評価項目について議論していただく。また、大きな決定として、市有地のみならず民有地を含めて検討いただく。

【意見交換会に向けた広報とそのスケジュールについて】

（藤倉委員）

民有地を含めた二次選定結果がもう一度出ることになるが、オーソライズするのは検討委員会なので、検討委員会で承認された二次選定結果が出るのは次回7月6日となる。検討委員会の承認を経た修正版の二次選定結果の地図はそれ以降でなければ出せないことになる。意見交換会には間に合うが、広報にある程度の候補地を載せて市民の皆さんに説明会に来ていただくことが必要だが、時間的に間に合うのか。

（田後施設建設担当部長）

予定ではおっしゃったスケジュールになるが、環境広報誌や違う方法で広報しても良いかと思う。基本的には7月6日の委員会承認後に広報に載せる。

（宗田部長）

中身は7月6日以降でないと出せないが、意見交換会の日程の広報は早めにしていきたい。

（百武委員）

今日承認された緑のエリアだけでも載せるべきではないか。

(田後施設建設担当部長)

6月中に検討委員会でご意見を募る際にも、そこまでの議論内容を提示し、最終的に7月6日に決まった内容を踏まえたものをそれ以降に出す。何回か情報を出す方向でやっていく。そうでないとスケジュール的に難しい。

(細見委員長)

部会でこのような「案」が出ているということを示すのも大事であると思う。「案」であることをしっかり示し、いつ部会で議論するのかということを示明していただければよいと思う。

(田後施設建設担当部長)

定期的に出ている広報まちだの1面または2面に必ず検討委員会の記事が出ている。その中にスケジュールや決まっていることを盛り込んでいく。それとは別に案段階のものも大きく出していく。

(細見委員長)

広報を重点的に行い、タイムリーに必要な情報を提供していくよう努力していただきたい。

6. 閉会